

総合心理学科

教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 井上 健	大学院の授業担当の有無（有）
-----------	----------	------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>1) わかりやすい教材</p> <p>2) 授業参加</p> <p>3) OHP、ビデオの使用</p>	<p>2004年 4月～20 05年7月</p>	<p>1) 精神医学を中心にした授業を担当しているが、実際に学生は障害者などに接する機会はないので、とつきやすいように、典型的な症状、症例を書物、論文などから多く集め、テーマごとに提示している。それに関する文芸作品なども適宜活用している。</p> <p>2) これらの症状、症例のプリントを適時学生に朗読させ授業参加を促し、その内容について質問し、理解の程度をみるようにしている。</p> <p>3) 障害者が描出した病的体験の絵画などをOHPを、また疾患を説明した30分程度のビデオを活用し、理解を深めるようにしている。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書 自己作成したレジュメ、資料</p>		
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p> <p>なし</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p> <p>なし</p>		

教育実践上の主な業績

所属	職名	氏名	大学院の授業担当の
文学部	教授	浮田 潤	有無（有）

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） 学生からのフィードバックの促進 ゼミ発表の活性化	2000年4月～ 2001年4月～	出席票の裏面に、授業その他に関する質問や感想などのコメントを自由に記入させ、次回の授業の最初に、それらを紹介して答えつつ、前回の内容の復習を行ない、より確実な理解を促す。懇切丁寧に対応することで、さらに積極的なコメント記入を動機づけることができる。 発表担当者に前週に発表内容を予告させ、さらに発表前に、その内容に関する小テストも作成・実施させる。これにより、ゼミメンバーの発表内容についての予習を促し、またそれを前提に、より深化したディスカッションを行なうことが可能となる。
2 作成した教科書、教材、参考書 心理学の基礎 三訂版、培風館 心理学研究レポート作成マニュアル	2003年4月 2004年4月	（共著）記憶、言語に関する章の一部を共同執筆 （共著）実証的な研究レポートの書式、書き方に関する実践的マニュアル。学部生の実習教育に広く活用。
3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき 事項 文学部教務主任	2003年4月～ 2005年3月	学部執行部の教務主任として、文学部のカリキュラムその他の教務上の問題全般に取り組んだ。さらに、全学の教務委員会のメンバーとして、また同委員会の下に設置されたいくつかの部会（教育活性化部会など）の委員として、全学的な教育活動の改革改善にも従事した。

教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 雄山真弓	大学院の授業担当の 有無（有）
-----------	----------	------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>授業理解を深めるため、授業時間の外で e-learning の活用をさせる。授業におけるレポートの提出を頻繁におこなう。</p>	2004 年 4 月～	<p>研究に必要な情報をどのように活用授業のするか、構築するかを教えるため、これまでの研究等の例を説明する。学生は、専攻している分野ごとに情報化の可能性を考えさせレポートを提出させる。そのレポートを可能にする方向性を授業で双方向に議論する</p> <p>データサイエンスの必要性、データベースの可能性など文系学部でも必要な項目について実例を入れながら説明する。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>資料は紙で配布しないで学内・外からパスワードがあれば見られる資料を作成している。データサイエンス、データ分析入門、情報科学、UNIX入門 その他</p>	2001 年 4 月～	<p>データサイエンスのパワーポイント資料 データ分析入門パワーポイント資料 情報科学の資料 UNIC入門資料 C言語資料 プログラムファイル 総合コース623ではIT関係の講義担当者ごとの資料など</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「教育における情報化」成城教育大106号(1999) 「情報化と学生をめぐる新たな可能性と問題点」大学時報 Vol.47,260(1999) ・「WWWを用いた不登校生徒・身障者に対する数学個別学習プログラムの取り組み」共著第50回 コンピュータと教育研究会 ・大学におけるデータサイエンス教育の必要性 第3回 JMP ユーザーの集い 事例発表(1999) 他
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p>		<p>私立大学情報教育協議会教育フォーラム委員(2000年3月まで)</p> <p>近畿情報教育連合常任理事(現在に至る)</p>

教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 桂田恵美子	大学院の授業担当の有無（有）
-----------	----------	-------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>「教育心理学特殊講義」における</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生参加型の授業 ・ゲストスピーカーによる講義（2回） 	<p>2005年4月 ～7月</p>	<p>比較的履修者の多い授業であるので、学生の自発的な参加を望むのは難しいため、授業の最後に質問やコメントを書かせ、提出させ、次の授業で、それらに答えるようにしていた。</p> <p>また、より直接的な学生の授業参加をはかるため、授業の後半において、前半の講義内容に関連した最近の英文の研究論文を選択し、グループごとに割り当て、グループでその研究の要約を作成し提出させ、更に代表者にクラスで発表させた。</p> <p>学期中に2人の海外からの研究者の訪問を受けたので、授業に招待し、アメリカでの心理職の仕事の様子や、コミュニケーションにおける性差など、その研究者の専門と授業の内容とを関連させた講義をお願いした。これは、ゲストスピーカーの講義を聞くことによって、刺激をうけると同時に授業に対する意欲を高めることを目的とするものだった。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p>		
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p>		

教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 佐々木正昭	大学院の授業担当の 有無（有）
-----------	----------	-------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>(1) 多人数授業における工夫 双方向の講義 視覚や聴覚に訴える講義</p>	<p>2000年4月 —2005年7月</p>	<p>多人数履修の授業においても復習をかねて前回の内容や様々な事柄を質問したり、授業の最後に授業について提出させたコメントや質問に答えたりして、できるだけ双方向の講義を心がけている。</p> <p>また、プリントやビデオを活用してたんなる講義だけでなく具体的に分る講義を心がけている。</p> <p>さらにまた講義によってはグループワークをして変化をつけている。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書 自著の一部や学会の大会で発表した資料など（他の方の著書や専門雑誌に掲載の論文なども）をプリントして配布している。 基本的に教科書や参考書は使用しない</p>	<p>同 上</p>	<p>例 生徒指導上の問題行動 自立について 自己効力感と自己存在感 中学生の現実感についてのアンケート調査結果 学校で一番印象に残っていることについてのアンケート結果</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p> <p>奈良県教育研究所「特別活動の教育的意義」</p> <p>阪神地区教育研究会特別活動部 「新教育課程を踏まえた特別活動の創造」</p> <p>兵庫教育大学附属中学校 「生徒指導上の問題行動と生徒理解」</p> <p>堺市中学校教育研究会 「21世紀の学校教育における特別活動に求められる学力」</p> <p>長野県諏訪郡富士見町落合小学校 「特別活動の意義」</p>	<p>2000年10月</p> <p>2000年11月</p> <p>2001年2月</p> <p>2003年1月</p> <p>2004年11月</p>	<p>教育課程の主要な領域の一つでありながら、とかく息抜きの時間としか捉えられない特別活動の意義を理念的、実践的に講義。</p> <p>2001年度実施の新学習指導要領に際して、特別活動のありかたを講義。</p> <p>生徒指導上の問題行動を生徒のひとつの自己表現と捉えて、生徒理解に努めることを講義。</p> <p>新しい世紀の学校教育において養うべき力について、特別活動の面から講義。</p> <p>集団活動を通して人間関係を作り上げ、自己規制の能力を養う特別活動の教育的意義を改めて講義。</p>

<p>宇都宮大学教育学部附属教育実践 総合センター 「現代の訓練」</p>	<p>2005年2月</p>	<p>個性や創造性の育成が主張される現代であるが、その基礎になるのは知徳体に関わる基礎知識と身体化された行動様式である。そうしたものを訓練することが軽視されているのではないかとして現代に必要な訓練のあり方を説く。</p>
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p>		

教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 嶋崎恒雄	大学院の授業担当の有無（有）
-----------	----------	------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） WWWによる小テスト実施と結果のフィードバック	2004年4月	文学部「データ解析法Ⅰ」講義用。
2 作成した教科書、教材、参考書 (1)「コンピュータを使おうか」ムイスリ出版 (2)「心理学研究レポート作成マニュアル」 (3) WWWによる講義ノート・資料の配布 (4) WWWによる講義ノート・資料の配布とPowerPointによる提示 (5) 線形代数・統計的線型モデルに関する資料ならびにデータ解析環境Rによる解析実施システム	2005年4月 2004年4月 2004年4月 2004年9月 2004年4月	文学部「情報処理基礎」の教科書。分担執筆。 文学部総合心理科学科実習科目用の教科書。分担執筆。 文学部「データ解析法Ⅰ」講義用。講義中に随時更新。 文学部「思考心理学」講義用。講義中に随時更新。 文学研究科「行動科学研究法A」講義用。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 特になし		

教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 清矢良崇	大学院の授業担当の有無（有）
-----------	----------	------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2003年4月～ 2004年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多人数履習の授業だけでなく、少人数のクラスであっても、常に学生の理解度や反応、要望を把握するために、授業の最後に授業の要約やコメント、質問を含む「感想」を書かせて提出させている。 また次の授業でそのコメントの一部を紹介し、相互のコミュニケーションを心がけている。 ・ その他、スライドやビデオ、自作のレジュメなどを適宜利用して、理解度を上げるよう工夫している。
2 作成した教科書、教材、参考書		特になし
3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等		特になし
4 その他教育活動上特記すべき 事項		特になし

教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 武安 宥	大学院の授業担当の有無（有）
-----------	----------	------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2000 年度～	<p>(例 1) 外書購読については、受講生に確かな語学の理解と正しい文章の理解・解釈が出来るよう、それらの基本的な内容の定着を図るため、学生一人ひとりに指名し、発表させ、その後に発問や説明等を通して、講義内の目標に各学生が到達できるよう工夫した。また学生の習熟度や理解度を測るために講義毎にレポートなどを課することによって講義方法のフィードバックを図り、次の講義へと生かすよう工夫した。</p> <p>(例 2) ゼミナールにおいては、受講生各自の関心、興味にそって発表させ、自らの関心事が学生の研究活動へと結実化するよう配慮し、レポート課題等によって言語表現によって自らの関心事をまとめる作業を図った。</p>
2 作成した教科書、教材、参考書 『人間形成のアイデア』昭和堂	同上	(例 1) 講義目的により効果的、合理的に到達するために、受講生にふさわしい内容を示した教科書を作成し、これをもって講義において活用した。
3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等		なし
4 その他教育活動上特記すべき 事項	同上	学内研究活動—研究雑誌『人文論究』編集委員

教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 中澤 清	大学院の授業担当の有無（有）
-----------	----------	------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 心理科学研究法 人文演習 人文演習	2004 年秋学期 2002 年春学期 2002 年春学期 以前	Web 上で項目 2 の教材を用いて、受講生に心理学実験をさせ、各自のデータを Web 上に集め、集めたデータを統計ソフトで解析させた。 心理学の基本的な現象を項目 2 のデジタル教材を用いて理解を促した。 項目 2 のデジタル教材のうちの数種の心理学実験教材を使用して、心理学実験の方法とレポートの書き方を指導した。
2 作成した教科書、教材、参考書 「e-Psychology」という心理学デジタル教材の開発	2001 年	心理学的諸現象を理解する上で役に立つ 20 種の心理学デジタル教材を開発し、私立大学情報教育協会でのこの教材が評価され会長賞を受賞した。
3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等 「Usability から emotionality へ」 「教材作成における Director の特徴」 「心理学デジタル教材の開発」	2004 年 8 月 2002 年 8 月 2001 年 7 月	コンピュータ利用教育協議会 PC カンファレンスで発表した。 コンピュータ利用教育協議会 PC カンファレンスで発表した。 私立大学情報教育協会第 9 回情報教育研究発表会で発表した。
4 その他教育活動上特記すべき 事項 私立大学情報教育協会心理学情報 教育研究委員	2002 年より	

教育実践上の主な業績

所属	職名	氏名	大学院の授業担当の
文学部	助教授	中島定彦	有無（有）

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 授業形態・履修者数に応じた授業運営。</p>	2000年4月～ 現在	各学期約10コマの授業を担当してきた。講義・講読・演習・実習と科目の授業形態は多岐にわたっており、授業形態に応じて教科書・プリント・板書のみ・パワーポイントと知識伝達メディアを変えている。履修者数も科目により、数名から数百名と大きく異なるので、出席状況のチェックや成績評価方法は科目ごとに工夫している。なお、講義科目では、ネットシラバスはおろか大学要覧も見ていない学生が少なからず存在するため、初回および2回目の授業時に、印刷したシラバスを過去の試験問題とともに配布している。また、受講マナー（私語厳禁、飲食不可）を注意せざるを得なくなってきたので、シラバスにその旨を記載するようにしている。
<p>2 作成した教科書、教材、参考書 『学習の心理—行動のメカニズムを探る—』(実森正子・中島定彦共著、サイエンス社)</p> <p>『アニマルラーニング—動物のしつけと訓練の科学—』(中島定彦著、ナカンシヤ出版)</p> <p>『心理学研究レポート作成マニュアル』(嶋崎恒雄・浮田潤・中島定彦共著、私家版生協販売)</p>	2000年6月25日 2002年4月10日 2004年4月	<p>文学部開講科目「学習心理学」の教科書として使用。</p> <p>同上、参考書として使用。</p> <p>文学部開講科目「心理学実験Ⅰ」「心理学実験Ⅱ」の教科書、同「心理科学研究法Ⅰ」の参考書として使用。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p> <p>『こんな授業をしています：関西学院大学における事例集』(関西学院大学総合教育研究室)への寄稿「心理学実験参加証システム」</p>	2001年3月	文学部心理学科「心理学実験Ⅰ」(1年生科目、2003年度文学科再編により科目消失。現在の3年生科目「心理学実験Ⅰ」とは異なる)における授業時間外での実習体験を促進するためのシステムの開発報告を行った。なお、現在、このシステムの発展版が、総合心理科学科学生が履修する複数の1～2年生科目(他教員担当のものを含む)において実行されている。
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p> <p><文学部> 情報科目運営委員 カリキュラム委員 教務副主任、言語教育科目運営委員(コンビーナー)、FD委員会(コンビーナー)、言語教育検討委員会</p> <p><大学> 日本研究教育プログラム室運営委員(総合日本学習コースコーディネーター)</p> <p>国際教育・協力委員、FD部会委員、外国人留学生奨学金委員、日本研究教育プログラム室運営委員、言語教育研究センター評議員、朝鮮語教育委員、中国語教育委員</p>	2001年4月～ 2003年3月 2003年4月～ 現在 2005年4月～ 現在 2004年4月～ 2005年3月 2005年4月～ 現在	<p>左記の通り、学部および大学の教育関係の委員会活動を行った。2005年4月からは、文学部教務副主任として学部の教育関係事項の運営に携わっている。</p>

教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 成田健一	大学院の授業担当の有無（無）
-----------	----------	------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） ・マルチメディア機器を利用した講義 ・授業に対するコメントシステム	2004年4月～ 現在 同上	演習を除くすべての授業において、PCを使ってプレゼンテーションを行った。また板書の代わりに、PC上にリアルタイムに入力することも行い、文字、図を示した。併せて、VTRを活用し当日のトピックに関連深い内容のものを提示した。本学の環境では、PCの提示スクリーンとVTRの表示ディスプレイが異なることが多い。そのため、VTRとPCを同時に提示し、VTRの内容をPC上のプレゼンで説明することが可能であった。 特定の授業（行動科学統計1, 2）において、毎時間出席を1人1枚渡しているカードで取っている。このカードは授業の冒頭に配布し、最後に回収する。カードの裏面には、当日の授業においてわかったこと、十分に理解ができなかったこと、授業・教員に対する要望など、自由にコメントすることを求めた。得られたコメントの内、重要なものやコメントが多いものについてはできるだけ次回の授業冒頭で回答を試みた。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・河野義章（編著） 「教育心理学」川島書店 ・矢口幸一・佐藤眞一（編著） 「成熟と老化の心理学」コレール社 ・自己作成したレジメ	印刷中 印刷中 2004年4月～ 現在	第13章「教育心理学を研究する」を担当。教育心理学の研究方法に関して、その概略を示した。 「感情・性格のエイジング」を担当。感情および性格がどのようにエイジングしていくか、について内外の文献を基に、その概略を示した。 ほぼすべての授業において、自分で作成したレジメを配布した。文献リスト、各回の概要とトピック、図表などを印刷し、配布した。
3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき 事項 情報処理科目運営委員会 コンビナー	2005年4月～	情報処理科目運営委員会において、コンビナーをつとめた。授業担当者と会合し、今年度の授業内容、評価等についての大枠を議論した。併せて、今後の改善に向けても議論を重ねた。

教育実践上の主な業績

所属	職名	氏名	大学院の授業担当の
文学部	教授	松見 淳子	有無（有）

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 *心理学フィールドワークの導入 *特別支援事業に「教育補助者」を配置し専門活動の実習を導入 *欧米の教育ビデオを授業に導入 *国際的インターネットテキストの利用 *英語で心理学の授業を行う	2003年5月～ 2002年6月～ 2002年4月～ 2003年10月 2002年4月～	心理学演習（3年、4年）「行動アセスメント」において、近辺の小学校と教育交流を行い、授業以外に毎週2時間教室で児童の支援を行い、テキストの内容の実践化の教育機会を設けている。 神戸市教育委員会「通常の学級におけるLD等へ特別支援事業」に学部生と大学院生を参加させ巡回相談員として指導する。 「異常心理学」の講義で米国で作成されたさまざまな教育ビデオを英語で見せ、世界の異常心理学研究や実践の水準に対する理解を促進させている。心理療法に関する実証的研究が進んでいることがビデオで分かるような企画になっている。 「比較文化心理学」の講義で、米国 Western Washington 大学の Center for Cross-Cultural Psychology が開発した世界で初めてのインターネットテキスト（100章）を読ませて報告させている。国際的な視野と英語で心理学の専門分野を学ぶ教育を行っている。 本学 Japan and East Asia Studies Program で留学生と日本人学部生を交えて英語で「日本人の心理学」を教え、学生間の異文化交流を図る。
2 作成した教科書、教材、参考書 *『心理学の基礎』三訂版 培風館 *『続 変容する子どもたち』神戸市小学校長会・神戸市小学校教育研究特別支援教育部（編）	2003年4月 2004年1月	第12章「臨床心理学の基礎」を執筆 第3章「LD 支援事業の実態と大学との連携」（pp. 47-68）を共同執筆（大学生・大学院生の実践活動と指導方法についてモデルを提唱）
3 教育方法・教育実践に関する *招待講演 *招待講演 *招待講演	2004年12月 2003年6月 2002年10月	「発達、学習、適応における問題をもつ児童生徒への教育的支援—学校における行動アセスメント」LD 学習会(兵庫) 教育講演会講師、神戸市勤労会館。 「多様性時代の特別支援教育：心理学の立場から」神戸市障害児教育校長協議会・総会、神戸市総合教育センター、神戸市。 「これからの特別支援教育：心理学の立場から」神戸市教頭研修会、神戸市総合教育センター そのほか毎年、教員研修会を複数の小学校で行っている研修会プログラムの作成と発表には学生が参画している。
4 その他教育活動上特記すべき *神戸市特別支援教育推進検討委員会 専門委員	2002年6月～ 2005年3月	神戸市「通常の学級における LD 等への特別支援事業」専門委員

